

明治三年

(二月)

正月元日 晴。

元旦之祝もするく相済候。昼後より御殿より迎ひの人来て、同道して参殿する。夜一宿。

(二月) 二日 晴。(二月二日マデー項目ノ記述)

朝、殿様御参賀有せられ候。私、九条殿え御礼ニ上り、暫して帰殿。昼時、殿様御帰殿。夫ヨリ御違例ニて、追々御ねつひとく成らせられ、三、四、五、六のうち、已ニ御六ツケ敷御様子ニて、一統大心配、一心に方々思ひくニ祈念いたし候処、少々ツツおよろしき御様子ニ相成遊し、十日頃には少々安心の御様子ニ相見へ候。医師倍道、舟引、近藤也。日々徹夜いたし候。

二月二日

少々ツツ、おひろい被遊候様ニ成らせられ候故、私、帰宅いたし候。

*御ねつ(御熱)

(二月) 四日

山本紹介認物五枚認候て、姉御殿え上り候。夜、徹夜する。

(二月三日、日記ナシ)

(二月) 五日

朝、帰宅。紫縮緬鏡掛、蛤、もゝの図認ル。扇子三本認。

(二月) 六日

絹地たにさく五枚認ル。

*たにさく(短冊)

(二月) 七日

沢さまえ上り、暫時して帰宅。

(二月) 八日

扇面五枚認ル。紙雛さま認ル。

(二月) 九日

いろく大坂行こしらへ物いたし、一寸御殿え御暇乞ニ上り、夕方帰ル。

*こしらへ(拵へ)

(二月) 十日

朝、御殿より山本、民部、北辻、父さま騎馬にて、寅吉五人、伏見迄送り下され候。私、清吉、すま女ト三人連也。伏見小道具屋にて昼飯して、乗船いたし候。此日、時々風あしくなそにて大ゐに困り候。七ツ時、八軒家ニ着船いたし候。夫ヨリ辻氏え行。暫して前橋屋敷え後室ト同道にて行。珍談有。二更後ニ帰ル。辻氏にて一宿。

*なそにて(等にて)

(二月) 十一日

朝ヨリ昼迄短冊認ル。昼後より井上氏え行、暫して上田氏え行、四更頃迄遊ぶ。一宿。

(二月) 十二日

朝、辻氏え帰ル。此日、加州西野小右衛門、船落しにて約束いたし候へとも、八ツ時迄沙汰なく候ゆへ、辻氏え難波新地見勢物見ニ行、帰り懸、豊しま氏え行、久々にていろく咄し、実にく世間のかわり候事あはれ至極にて、咄しを聞て涙を流し候。七ツ時後ニ帰り候。夫ヨリ井上氏え行、一宿。

*見勢物(見世物) *豊しま(豊島)

(二月) 十三日

少々雨天にて、井上氏より文楽え行、終日楽しみ候。夕方、帰ル。

(二月) 十四日

西松しまえ船にて行、松島楼、松鶴楼え行、花楊楼にて馳走。七ツ時迄遊ぶ。夕方、帰ル。

*西松しま(西松島)

(二月) 十五日

昼時より井德え行、夫ヨリ木津智願院さまえ行。唯専寺、願泉寺え行、墓参りいたし、夫ヨリ天下茶屋え行、暫咄して唯専寺え行、夕飯して井德え帰り一宿。此日、清吉帰京為致候筈つもり致し候処、またやめニ相成候。

(二月) 十六日

朝ヨリ角の芝居え行候処、又々井上氏ヨリ角の芝居行にて申来。同日にて残念也。一更ニ果ル。又井德え帰り一宿。

(二月) 十七日

朝、高津さまえ参詣いたし、吉井えも一寸寄候。此時、井上氏より呼に來候て、昼飯して道頓堀浅田屋え寄、髪結て、井上氏ニ帰り候。此日、柳川中老、国府え帰られ候ニ付、振舞にて三丸屋え行。面白キ事也。一更ニ井上氏え同道にて帰り候。

(二月) 十八日

此日、京師え便りいたし候。終日したゝめ物いたし候。

(二月) 十九日

終日したゝめ物いたし(候)。

(二月) 廿日

終日したゝめ物いたし候。

(二月) 廿一日

朝ヨリ井徳え行。夫ヨリ天王寺参詣いたし、山口え寄。木津唯専寺え用事有候て行候処、皆々彼岸参りにて、院主玉泉寺、私を待て居られ候て、又々安居前迄行。此行かけ、楚山先生え寄、暫咄して帰り候。安居前にて七ツ時迄遊ふ。此時、堺より智明院帰られ候て、尾上も同道也。七ツ時より井徳迄帰り一宿。

(二月) 廿二日

朝、井上氏え帰り候。昼時より井上氏惣つれにて北野別荘、二の午にて行、終日遊ぶ。鴻池善五郎別荘えも行、一更ニ帰宅。

(二月) 廿三日

朝より認物、八ツ時後迄いたし、夫ヨリ井上氏暇乞して、辻氏え行。井上氏より船の用意いたしくれられ候て、夕方、北浜大小の船ニ乗り、船出して暫して雨降出し、終夜大雨ニテ大困り。

(二月) 廿四日

朝四ツ時、船着いたし、小道具屋迄、典膳、山本、愛治郎、伊之助迎ひに來られ候て、暫して昼飯して、雨中帰宅。夫ヨリ早々参殿いたし、夜一宿。

(二月) 廿五日

昼時より沢さまえ上り候。夜、手本二冊認ル。

(二月) 廿六日

此日、姉御殿より稽古ニテ召れ候て参殿。夜一宿。

(二月) 廿七日

朝、帰宅。

(二月) 廿八日

終日、来客ニテ放業。手本一冊認ル。

(二月) 廿九日

扇子二本認。八ツ時、殿様成せられ候。七ツ時、還御也。

(二月) 三十日

来客、昼後迄放業。雨中嵐山認ル。

(三月)

三月朔日

此日、参殿いたし、人形調に父さまト同道ニテ四条辺え行、帰殿。

(三月) 二日

此朝、帰宅。夫ヨリ人形着物仕立ル。御殿より呼ニ来り、七ツ時より参殿。

(三月) 三日 雨。

終日御殿ニ居り候。夕方ヨリよし姫さま、千世滝さま、風早さま御初節句ニテ招かれ遊し、参られ候。一更後ニ御帰殿也。

(三月) 四日 雨。

朝、帰宅。昼後ヨリ京師諸先生家え後藤追善展観之書画頼みに歩候。七ツ時ニ帰宅。

(三月) 五日 雨。

昼時ヨリ書画頼みに行。夕景、帰宅。此日、きぬ女暇出シ候。

(三月) 六日 晴。

朝、嵐山認ル。浪花井上氏え便スル。昼後ヨリ姉御殿え上り候。殿様御本腹の御祝也。沢様の定姫さま、まさ丸さま、つる女成らせられ候。御一宿也。私も一宿。

*御本腹(御本復)

(三月) 七日

朝、仏参いたし、夫ヨリ帰宅。扇子三本揮毫。

(三月) 八日

此日、姉御殿え上り、御稽古上テ一宿。

(三月) 九日

朝、帰宅。此日、しけ女帰し候。万山畳翠ニかゝる。宮原え参り候女せい、私宅ニテ目見いたし、一宿。此日、大坂上田より便有。

(三月) 十日

昼後より、せい女、宮原え行候。此日も万山畳翠揮毫スル。井上氏使新人来り候。

(三月) 十一日

昼時より伊藤軍八方え行、暫居候て、江馬天江方え行、夫ヨリ前田暢堂、神山、中西、万長え行、七ツ時後ニ帰り候。鳩居堂えも行。夜、詩作。

(三月) 十二日

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十三日

(コノ日、記事ナシ)

(三月) 十四日

朝ヨリ後藤行、兼書画出し候。いろ／＼こしらへ物ニて大いそかしく、七ツ時より御殿え参り、夜三更ニ臥。三更半に起ル。大和法隆寺え蓮観院様参らせられ候ニ付、私、父様、千世滝さま御供いたし候也。

*こしらへ物(拵へ物) *いそかしく(忙しく)

(三月) 十五日

朝七ツ時後ニ御出門也。此時より少々雨降、追々大雨ニて大困り候也。伏見玉屋ニて、御寺御所上臈さま、信猷院さま御待合ニて、信猷院さま雨中ニテ御断ニて御別れ遊し候。此

夜五ツ半、南都西の御所御着也。此日、駕ニテ三笠山よりの月見いたし候。

(三月) 十六日 雨。

西の御所ニテ御滞留也。私、父様、北村、底抜町艾翁老人の墓え参り、夫ヨリ総や善三郎方へ行。艾翁老人の画拝見いたし、いろく物話して、俵屋と申宿迄帰り、昼飯して西の御所え帰り、此時、蓮様、春日社え御参詣ニテ御供いたし候。夫ヨリ大仏満灯折ニ逢候也。三笠山、猿沢の池、実に神の住へき地也と被存候也。七ツ時後に還御也。夜、浄瑠璃有。面白き事也。

*物話(物語)

(三月) 十七日 晴。

朝、明六ツ前立ニテ法隆寺え御参詣也。中宮寺え成らせられ、役人僧案内ニテ、実にくはれかましく候事也。拝見の人々打払、開帳物尽手ニ取て拝見いたし、実にくもつたいなき事也。此夜、法隆寺門前かせやニテ御一宿也。此日七ツ時、桜木さま、花島らく巖子参られ候て、同宿也。

*かせや(総や)

(三月) 十八日

朝、六ツ立ニテ神武陵え御参詣、答の峰えの道すから所々見物いたし、答の峰ヨリ雨、夫ヨリ段(々)雨ひとく相成、はせ迄降つけ、日暮て一里をいわけ越の山坂、実にくあやうき事也。二更前ニはせ扇屋ニテ御一宿也。

*答の峰(塔の峰) *答の峰(塔の峰) *はせ(初瀬) *はせ(初瀬)

(三月) 十九日 雨。

朝、はせ観音さまえ御参詣也。内陣入遊し候。牡丹未た早く、一、二本咲出し候也。此日も、雨中騎馬ニテ行候也。道中実に面白き事也。此日日暮、山村御殿、円称寺様え成らせられ候。此夜、御茶屋ニテ御一宿也。桜木さまのかた園、浜浦と西の御所え帰られ候。

*はせ観音さま(長谷観音さま)

(三月) 廿日 晴。

終日山村さまニテ遊ぶ。宮さま御そはニテ席画いたし候。宮さま御そはニテ結構御料理いたし、実にく難有く事也。日暮より山村御殿出立いたし候。五ツ時、西の御所え着也。

*御そは(御側) *御そは(御側)

(三月) 廿一日

朝、六ツ御立也。朝、少々雨、終日晴ル。木津より御船也。淀より御上り也。七ツ時、二条私宅迄御帰りニ相成、夫ヨリ日暮、御帰殿也。御殿ニテ一宿。

(三月) 廿一日

昼時より二条宅え帰り候。此日より下女きの来り候。

(三月) 廿二日

此日、殿様成らせられ候

(三月) 廿四日

昼時より岡崎伏田秀嶺死去ニ付くやみに行、八ツ半時、姉御殿え帰り、七ツ時、帰宅いたし候。此時、父さま参られ候。此日、大坂願泉寺より文着。

*くやみ(悔み)

(三月) 廿五日

朝、父さま山科え参られ候行かけ、一寸御寄被成候。終日法帖物揮毫。

(三月) 廿六日

法帖、扇子七本揮毫。夜、書法帖二冊揮毫。此日、殿様成らせられ候。

(三月) 廿七日

八ツ時より九条家え御稽古に上り、夕景帰宅ス。此日、越後人清川参られ候。

(三月) 廿八日

昼時より姉御殿え上り候処、殿様少々御違例ニ而、御床の御そはニ而、御本簞子松柏千草之凶揮毫、扇子一本ト。夜一宿。

*御そは(御側) *簞子(簞笥)

(三月) 廿九日

朝、帰宅。扇子十二本認上ル。

(三月) 三十日

(コノ日、記事ナシ)

(四月)

四月朔日

此日は御上ヨリ御触ニテ、此度人氣あしく候ニ而、加茂社え参詣の為に、洛中洛外不残賑々しく参詣可致様申来り候。三日の間也。此日、姉御殿え上り、昼後より九条殿え上り御稽古して、七ツ時、帰宅。

(四月) 二日

此日、加茂川原迄人見物ニ行候也。

(四月) 三日

万山畳翠ニかゝる。木津尾上、若州より帰り、寄候也。

(四月) 四日 雨。

朝、姉御殿え参殿いたし候。此日、殿様、よし姫さま御誕生日也。興正子、大門様成らせられ候。昼後より夕景迄也。私一宿。

(四月) 五日 晴。

朝、帰宅。万山畳翠認ル。

(四月) 六日 晴。

万山畳翠落製。画帖三冊認。

(四月) 七日 雨。

朝、仏参。御殿え上り、八ツ時帰宅。半切一枚認。

(四月) 八日

半切山水認、八ツ時より下辺え行、雨ニ逢て、七ツ時ニ帰宅。夜、詩作。

(四月) 九日 晴。

半切一枚揮毫。私誕辰ニ而、父様、千世滝さま、民部、亀の氏、山本氏招キ、夜、咄し聞ニ行。四ツ時、皆々帰殿致され候。

(四月) 十日

終日揮毫。

(四月) 十一日 晴。

終日揮毫。八ツ半時、殿様成らせられ、御一宿被遊候。

(四月) 十二日 晴。

終日揮毫。八ツ時下り、渡辺太夫え被参、夕景帰られ候。

(四月) 十三日 曇。

昼時より姉御殿え上り候処、殿様、音羽御所え成らせられ候て、御留主中也。由姫様御稽古上て帰り候。七ツ時也。

(四月) 十四日

聯落春山水、扇子一本揮毫。父さま御出也。夜四ツ時、御帰殿也。絹地豎物四季草花揮毫。

(四月) 十五日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 十六日 朝雨。

縮緬帛紗富貴長春之図、法帖揮毫。

(四月) 十七日

姉御殿え御稽古ニ上り候。一宿。

(四月) 十八日

朝ヨリ父様、浪花え聖徳太子御還着勤ニ下られ候。此日、御殿御茶製日ニて終日夜三更迄賑々しき事也。夜一宿。

(四月) 十九日

蓮様、寿様、泉涌寺え御仏参ニて御供いたし候。昼時、円通寺迄御帰りニて、私、御供帰いたし候。七ツ時前、帰宅。

(四月) 二十日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 二十一日

朝御廟え参詣いたし候。夫より姉御殿え上り候。暫して帰り候。

(四月) 二十一日

朝、御殿より呼に來、上り候処、此日、御客さまにて御手伝いたし候。中院千代君さま、信猷院さま成らせられ候。いろくおもしろき事也。二更ニ御帰殿也。夜一宿。

(四月) 二十二日

よし姫さま、高野え成らせられ候て、御留主番いたし候。夜一宿。

(四月) 二十四日

朝、帰宅。蓮さま扇子二本認ル。此日、清川致三來。

(四月) 二十五日

昼午刻ヨリ出火。三条川東、八ツ時火沈。二丁七軒焼。扇子三本揮毫。

*沈(鎮)

(四月) 二十六日

此日七ツ時、父様浪花より帰られ候。扇子二本、書画帖揮毫。

(四月) 二十七日

(コノ日、記事ナシ)

(四月) 二十八日

三谷樵翁來。合作物相頼、四枚認ル。

(四月) 二十九日

此日七ツ時前より御殿え上り、夜一宿。

(五月)

五月朔日

朝、帰宅。昼後、沢殿え上り、暫して伏田え行。暫して石山殿え上り、夕暮帰宅。

(五月) 二日

昼後より姉御殿え上り、御書御稽古上ル。夫より九条殿え上り、御稽古上テ、夕景、姉御殿迄帰り一宿。浪花井上より便有。

(五月) 三日

朝、帰宅。

(五月) 四日 晴。

半切山水二枚、書一枚、亀野氏帰国二付、需られ候短冊六枚認。

(五月) 五日 晴、大熱気。

節句御祝相済候。昼後、錦迄、明日一周忌買物二行、帰宅。姉小路御殿え上り、暫して帰宅。此日、対州青木より便有、朝鮮人李基永詩送られ候。

(五月) 六日 晴、涼。

昼後、殿様御参詣遊され、御殿一統不残参られ候。八ツ時、泉徳寺参詣。殿様、夕方御帰殿也。一更ニ一周忌もするく相済候也。父さま御一宿。

(五月) 七日 晴。

朝、父様と同道にて大谷え参り、帰り、昼後より常願院え仏参いたし、夜一宿。

(五月) 八日

朝、帰宅。

(五月) 九日

清書巻認、父さまよりの扇子認ル。夜、大坂行文認、四更迄。臥。

(五月) 十日

朝、大坂行紙包物、昼迄いたし候。昼時、姉御殿え上り御稽古上ル。八ツ時後より殿様、私宅え成らせられ候。私も此時帰宅。夜、御一般。

(五月) 十一日

朝、殿様御帰殿也。

(五月) 十二日

昼後、九条殿え上り御稽古いたし候て、七ツ後時ニ姉御殿迄帰殿、一般。

(五月) 十三日 晴。

朝七ツ起。五ツ時、御出門。殿様、よし姫様、金閣寺え成らせられ候。私も、女中不残、表一統御供いたし、金閣寺庭前真に絶妙、魚湖池え舟を泛、詩歌催、弁当なとつかひ、昼

時まで舟遊び。寺主僧号衣峰、此人書画願候て、御席書大はつみ。僧主も席書いたし候、七ツ時前迄也。夫ヨリ御あひのもの、寺より出候て、夫ヨリ御帰殿也。夕景、御帰殿也。私一宿。此日、木津若清参殿、一宿。

*魚湖池(鏡湖池) *大はつみ(大弾み) *御あひのもの(御間のもの)

(五月) 十四日 雨。

昼時、帰宅。父様御出、民部、高橋来り候。父様御一宿。

(五月) 十五日 雨。

半切菊揮毫。父様、朝帰られ候。大坂井上氏使太八来り候。

(五月) 十六日 晴。

全紙喜気春風揮毫。

(五月) 十七日 晴。

全紙きく揮毫。夜、六角堂え参詣。

*きく(菊)

(五月) 十八日 雨。

早朝より芝居行。日暮、帰宅。父さま一宿致され候。

(五月) 十九日 晴。

全紙きく揮毫。七ツ時より姉御殿え上り一宿。

*きく(菊)

(五月) 二十日 晴。

朝、よし姫様獅々ヶ谷え御参り遊し、私、父さま、千世滝さま、はる、兵部、千代、清吉、御供也。銀閣寺え成らせられ候。八ツ時迄法念院にて御休。哥大はつみ也。八ツ時、御せかき相勤り候。御経済て御帰り也。七ツ時、御帰殿也。私一宿。

*獅々ヶ谷(鹿ヶ谷) *大はつみ(大弾み) *御せかき(御施餓鬼)

(五月) 廿一日 雨。

清烈院様御祥忌相勤り候。私、昼前帰宅。

(五月) 廿二日 晴。

八ツ時より九条殿え上り、七ツ時後に帰宅也。

(五月) 廿三日

裾模様揮毫。昼時より姉御殿え上り候。此朝、清川致三、東京え行れ候ニ付いとま乞ニ来り候。姉御殿え渡辺鉄三郎参殿被致、面対いたし、七ツ下り迄珍談。私、夜一宿。蒙述論講。夜、大雨。

*いとま(暇) *蒙述(蒙求) *論講(輪講)

(五月) 廿四日

朝、大雨。昼止。八ツ時、帰宅。

(五月) 廿五日 八ツ時より雨

全紙四季花卉揮毫。

(五月) 廿六日 晴。

全紙四季花卉落製。此日、父さま御出被成候。

(五月) 廿七日

早朝ヨリ芝居行。七ツ時、帰宅。

(五月) 廿八日

此日、姉御殿え御稽古に上り候。一宿。

(五月) 廿九日

朝、帰宅。昼後、父さま御出ニテ、同道、かき太え越後縮買ニ行候。七ツ時、帰宅。峰山藩来。

(五月) 三十日

扇子十本揮毫。

(六月)

六月朔(日) 雨。

八ツ時、殿様成らせられ候。七ツ時、御帰殿也。花、早々参殿、一宿。

(六月) 二日 雨。

御稽古上て、昼時帰宅。八ツ時より九条殿え上り御稽古上て、夕方帰宅。越後横村来り候。

(六月) 三日 晴。

半切米点山水揮毫。昼時、父さま御出。錦口の七来候。寺町卯の女来。

(六月) 四日 朝晴、昼より雨。

朝、愛治郎来。風邪ニテ終日養生スル。一宿。倍堂来。朝、岡小十郎来。

(六月) 五日

半切米法山水認。

(六月) 六日

朝、千世滝さま、民部、倍道、治女来。私、妙善院さま一周忌ニテ即成寺え参詣いたし候。父様、先より参詣被致候。前田子来。昼時帰宅。夕、四条迄行。皆々、夜徹夜いたし候。

(六月) 七日

朝、帰られ候。父様、朝来られ候て、私同道ニテ大谷え参詣。此時、四条ニテ鉾見物いたし候。八ツ時、帰宅。父さま御一宿。

(六月) 八日

私、朝より足はれ急腹痛。倍道来。民部、父さま御出也。

(六月) 九日

臥。

(六月) 十日

臥。

(六月) 十一日

三宅氏のうれん瀑布認。

*のうれん(暖簾)

(六月) 十二日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 十三日

神事掃事、父様先臨。夕方、父様卜同道ニテ四条辺買物ニ行。四条東洞院ニテ出火聞、大驚、帰り、早々父様卜同道ニテ御殿えかけ付候処、相国寺出火ニテ先々安心いたし、夫ヨリ帰宅。

*掃事(掃除)

(六月) 十四日 大暑。晴、七ツ時大雨、即晴

朝、殿様、よし姫様成らせられ候。終日御遊ひ也。夕景、御帰殿也。

(六月) 十五日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 十六日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 十七日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 十八日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 十九日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 廿日

(コノ日、記事ナシ)

(六月) 廿一日

朝、御廟え参詣いたし、姉御殿え上り、日中帰宅。父様先臨。夕景、父様、私、きの連て四条迄行、帰る。

(六月) 廿二日

昼後八ツ時、九条殿え御稽古ニ上り、夕景帰宅。

(六月) 廿三日

朝、父様卜同道ニテ池徳方え行、昼時帰宅。

(六月) 廿四日
松屋地袋三枚認ル。

(六月) 廿五日
朝、天神宮へ参詣。足痛大困、漸昼時帰宅。八ツ時より、きの、万長迄使ニ遣し候。夜、不帰。夜、私参殿いたし候。一宿。此夜、大腹痛ニテ徹夜いたし候。大坂井上氏へ便する。

(六月) 廿六日
終、腹痛不治。
*終(終日)

(六月) 廿七日
漸少々止、夕景帰宅。此夜、又腹痛。

(六月) 廿八日
昼後、きの、宿え帰り、夜不帰。民部一宿。

(六月) 廿九日
朝、愛治郎帰殿。昼後より大風雨、大雷。屋根板など散事、火の子ノ如し。竜二ヶ所ニテ天上いたし、大宮様より天上、東洞院六角ニテ竜天上。御所雷落、十四、五ヶ所落る。七ツ時迄雷鳴。私老人也。

(七月)
七月朔日 丑
きの女帰宅。愛治郎来。七ツ時、帰殿。谷腸城、岡小十郎、暑中ニ来ル。

(七月) 二日 寅 雨。
朝、九条家へ参殿。御稽古して、昼時、姉御殿え上り御稽古。八ツ時、帰宅。大雨。

(七月) 三日 卯 晴、雨。
朝ヨリ小切紙十二枚、短冊五枚揮毫。愛治郎来。夜、書揮毫。

(七月) 四日 辰 晴。
朝ヨリ短冊六枚、扇子三本揮毫。大坂井上氏より便有。又井上氏、辻氏、楚山え便スル。

夜、扇子十本揮毫。

(七月) 五日 巳 晴、夜雨。

ウトン華祝いたし候。千世滝さま、典膳、民部、兵部来。終日酒宴。夜一更前ニ帰殿。私同道也。父さま所勞ニテ不参也。

*ウトン (優曇)

(七月) 六日 午 晴。夜雨。

朝、帰宅。勝女来。七ツ時、四条え調物ニ行、日暮帰宅。父様御出也。一宿。

(七月) 七日 未 雨、昼晴。

朝、岡小十郎来。大坂井上氏より保命酒着。昼後より御殿え上り、御廟参いたし候。夜一宿。昼前、父様御帰殿也。勝も帰候。

(七月) 八日 申 晴。

朝帰宅。書、認物する。四ツ時より松原辺迄行、帰り、万長え寄、七ツ時帰宅。

(七月) 九日 酉 晴。

此日より、きの大坂行いたし候。大坂井上氏え便する。八ツ時下り、父様御出、一宿。夜、火の御用廻り。

(七月) 十日 戌 晴。

朝、扇子五本、赫の子急揮毫ニテ昼迄かゝる。谷家内来、昼後迄居られ候。井上氏使新八来。兵部、民部来。父様御出、一宿也。

(七月) 十一日 亥 晴。

昼時より父様哥ノ会ニテ法界寺え行れ候。夕景、帰宅。一宿。

(七月) 十二日 子

朝、父様御帰殿也。此日、殿様御所より御用召ニテ、即御参内被為在候処、東京え召レ候也。皆々一統大歎息也。夕方より私参殿、一宿。

(七月) 十三日 丑 雨。

朝、帰宅。半切一枚、画手本揮毫。

(七月) 十四日

扇子二本揮毫。諸扨相済。父様、夕方御出、一宿。

(七月) 十五日 雨、晴。

早朝、帰殿。昼時より私参殿、一宿。此夜、きの、浪花より帰宅。

(七月) 十六日 雨、晴。

此日も一宿。

(七月) 十七日

二条宅え帰り候。

(七月) 十八日

(コノ日、記事ナシ)

(七月) 十九日

(コノ日、記事ナシ)

(七月) 二十日

家ノかた付いたし候。

(七月) 二十一日

御殿え私引越候。きの、病氣にて宿下りいたし候。私事、東京御供のつもりにて、いろ／＼**こしらへ物**いたし候。当月廿八日御発輿御治定ニテ、**御こしらへ**も成就遊し候処、廿六日、阿野家より御止メられ遊し、先々御延引。いろ／＼**コテ／＼**ニテ、**扱々しんきな／＼**事起り候。先々御東行ハいつの事やら不相分候処、弥十月十一日御発足ニあらせられ候。御供の人、民部、奥田二人ヨリ外ならぬ事にて、扱々**御あし**申上られ候事也。実ニ御一新とハ申なから、ひとき／＼仕方、皆々心配／＼いたし候。父さまは御供の外にて行れ候。
*こしらへ物(拵へ物) *御こしらへ(御拵へ) *しんきな(辛気な) *御あし(御あんし) (御案じ)

(七月廿二日～八月三十日、日記ナシ)

(八月)

(八月一日～二十九日、日記ナシ)

(九月)

(九月一日〜十日、日記ナシ)

(九月) 十一日 極晴天。

朝七ツ時、御出門也。御供、民部、奥田、下部主従四人也。父様御供外ニテ一人行れ候。御見立の人もなく、中々御ひそやかなの事、恐れ〜入候也。御出立後、家内打寄、皆々なけき〜涙成千万行。

*御ひそやか(御密やか)

(九月) 十二日 晴天。

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 十三日 小雨。

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 十四日 雨。

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 十五日

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 十六日

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 十七日

(コノ日、記事ナシ)

(九月) 十八日 雨。

朝、私、北辻同道ニテ清水寺え参詣いたし、四ツ時帰殿。七ツ時ヨリ大風雨。皆々御道中御あんし申上、徹夜いたし候。夜通し風雨不治□(虫損)。

*御あんし(御案じ)

(九月) 十九日 晴、又雨。

所々大あれ、御殿ハ無難。私宅、高へ尽タヲレ候。
*へ(塀) *タヲレ(倒レ)

(九月) 二十日 晴。
大井川御祝也。石山様成らせられ候。御祝酒。夜二更ニ石山様御帰り也。

(九月) 二十一日 晴。
朝、御廟え参詣いたし候。

(九月) 二十二日 晴。
昼時より君様、よし姫様、松か崎え成らせられ候。御供千よ滝、ひて、鶴、山本、高橋、伊之助也。日暮、御帰殿也。私、九条殿上り、七ツ時後に帰殿。此日よりねこ騒動也。
*ねこ騒動(猫騒動)

(九月) 二十三日 晴。
朝六ツ時より千よ滝、花蹊、山中、上芝、参詣いたし候。五ツ後ニ帰殿。終日、画。ねこ騒動、徹夜。
*ねこ騒動(猫騒動)

(九月) 廿四日 小雨。
ねこ騒動未不治。十八日大風雨、伊勢路、美濃、尾州、江州、大坂、大変大あれ。日々飛脚えたより聞二行候へとも不分。此朝、山本氏、大津辺迄聞に行れ候処、殿様はよき御都合らしく候て安心いたし候。兵部子、八幡迄行れ候つもり、水ニて道なく、大津より帰られ候。
*ねこ騒動(猫騒動) *未(不)治

(九月) 二十五日 晴、九ツ時一寸時雨、又晴。
朝明六ツ時前より、私、中番連て北野天満宮え参詣いたし、兵部子も来り候。御百度して、五ツ時帰殿候。此日昼後、宮原え行。

(九月) 二十六日 晴。
(コノ日、記事ナシ)

(九月) 二十七日 晴。
朝、九条殿え御稽古に上り、昼飯戴て帰り候。此日、殿様御東着之御祝也。苗(猫)騒動、先々治り候。

(九月) 二十八日 晴。

朝七ツ半時より、私、ひて、山本、梅作同道にて、北野社へ参詣して、御三百度して、四ツ時帰殿。此日、父様、浜松宿より便り有。十八日大風雨、ツナミ同様、一万石程大あれ、十九日、新井の処、先々御見合ニ相成、船渡し出来次第御出立の御様子也。殿様御始、御次の人々も皆々御無事之由にて安心いたし候。此日、返事差出し候。

*ツナミ(津波)

(九月) 二十九日

朝ヨリ、典、極、重太郎連て御領分へ行候。夜一更ニ帰殿也。

(九月) 晦日

(コノ日、記事ナシ)

(十月)

十月朔日 晴。

(十月) 二日 晴。

八ツ時より九条殿え上り、御稽古して、夕方帰殿。

(十月) 三日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 四日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 五日 晴。

昼時より沢さまえ上り候。忠姫さま東京より御帰りニ付、御悦ニ参り、御道中、[神原ノ辺](#)ニテ殿様に御逢遊し候由ニテ、承りニ参り候。

*神原(蒲原)

(十月) 六日 晴。

朝五ツ時、下加茂出火。此時、蓮観院さま、よし姫さま、[幡村円通寺](#)え成らせられ候。
*幡村(幡枝)

(十月) 七日 晴。

八ツ時より九条殿え上り、夕方帰殿。

(十月) 八日 晴。

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 九日 雨。

昼後、宮原え行、七ツ時前帰殿。夜、詩作、読書、四更迄。

(十月) 十日 晴。

法帖一揮。夜三更迄詩作。

(十月) 十一日 雨。

半切菊一揮、半切六枚書。夜三更迄詩作。

(十月) 十二日 晴、雨。

昼後より千世滝さまと同道にて高樹院え行候処、此日、古今集講訳日ニ而、中院四位様、外ニ社中出会被致、当座、橋上時雨。日暮、帰殿いたし候。夜四更迄。

*講訳(講釈)

(十月) 十三日 雨。

昼後、九条殿え行、稽古せずして帰殿。

(十月) 十四日 雨。

朝ヨリ、千よ滝さま、私、岩太同道ニテ、三宅八幡宮え参詣いたし、昼時帰殿。此他行中、東京ヨリ御供の人幸助帰り候。父様、殿様ヨリ御文載、真に御道中別なく、御機嫌よく御東着にて、一同難有り候。父様ヨリ、私早々ニ東行いたし候様申参り候。千世滝さま、沢様え行れ候。

(十月) 十五日 晴。

御蔵附御祝也。八ツ時、相済候。半切出山積加灌仏一揮スル。

*積加灌仏(釈迦灌仏)

(十月) 十六日

大職官様御神事也。私御手伝。石山様御祭り遊し候。八ツ半時ニ成らせられ候。夜一更半

ニ御帰り也。

*大職官様(大織冠)

(十月) 十七日 晴。

此昼時より清水寺え参詣いたし候。

(十月) 十八日 朝、少時雨、止、晴天。

朝七ツ時、出門、次女中一統、表一統。新助一人残ル。北野天満宮え参詣。昼時迄二二千度いたし帰殿也。

(十月) 十九日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 廿日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 廿一日

御廟参。

(十月) 廿二日 晴。

早朝より三宅八幡宮え御参也。良姫様、次千代滝始一統、表下部一統。典、山本、新助残ル。二千度して御帰殿、八ツ半時也。

(十月) 廿三日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 廿四日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 廿五日

朝六ツ時より北野天満宮え参詣。五ツ前ニ帰殿也。千よ滝、花蹊、捨吉也。

(十月) 廿六日

(コノ日、記事ナシ)

(十月) 廿七日

昼後、九条殿え上り、御稽古して、七ツ時帰殿也。扇子五本揮毫。

(十月) 廿八日 時々しくれる。

早朝より金閣寺え成らせられ候。蓮様御誘にて、よし姫様成らせられ候。千世滝御供也。

(十月) 廿九日 晴。

昼時より村松え頼みに行。治所勞故也。前田え行、日暮て帰殿也。此日、東京より書面着。

(閏十月)

閏十月朔日 晴。

早朝より嵯峨はしこ地蔵尊え参詣、千代滝、私、兵部、捨吉也。嵐山之紅葉未半。詩歌して、実に面白き事也。

*はしこ(梯子)

(閏十月) 二日 甲子 晴。

昼時より宮原え行、九条殿え上、御稽古して、七ツ時帰殿也。夜四更迄詩作。

(閏十月) 三日 乙丑 晴。

半切松一揮。

(閏十月) 四日 丙寅 晴。

早朝より北野天満宮え参詣いたし候。私、東行門出いたし候。夫ヨリ金閣寺え行。和尚貫宗二逢、書画、詩作。終日遊ぶ。夕飯呼れ、帰殿。紅葉至極妙々也。

(閏十月) 五日

東京え便スル。沢様え行。

(閏十月) 六日

此日、報恩講勤ル。

(閏十月) 七日 雨。

朝四ツ時より南禅寺え御出也。蓮様、清泰院様、よし姫様成らせられ候。清道さま、夜四ツ時御帰殿也。良姫様、石山様にて御一泊也。私、沢様え宅の事二付上り候。夕方、帰殿也。

(閏十月) 八日 晴。

良姫様御帰殿也。此日、半切梅松二枚一揮スル。夜四更二臥。東京より便有。

(閏十月) 九日 晴。

昼時より獅々ヶ谷法然院えセカキ勤ニ行候。風早様よし姫さまの初月忌也。千世滝、千満私也。夕方、帰殿也。

*獅々ヶ谷(鹿ヶ谷) *セカキ(施餓鬼)

(閏十月十日〜廿九日、日記ナシ)

(十一月)

(十一月一日〜十六日、日記ナシ)

十一月十七日

朝七ツ時起、七ツ半時出門シテ東行出立。三条ヶアケ井筒屋迄、山本、山中、日原、上芝、北辻、新助、寅吉、捨吉、梅作送り候也。暫して夜明ル。此時、沢様、浅野さま待合ス。

夫ヨリ同道ニて行。蹴上ヨリ小雨、終日雨。実にくうき旅と相知られ候。御昼、草津不二屋、八ツ時過也。泊り石部、暮六ツ時也。大雨中也。

*ヶアケ(蹴上)

(十一月) 十八日

朝五更、立。大風雨、三里行て夜明る。五ツ時、横田川、大風雨ニて已ニあやふき処也。

実に一生命懸命也。漸、此橋渡り、猶々荒風、天地もくつる、心地いたし候。土山駅ニテ御昼也。此宿ニて聞候、夷人、此駅に滞留いたし居り候て、日本土地所々巡見いたし、夫ヨリ追々箱根権現え参詣いたし候と申居り候。此地も鈴鹿権現の神風と人々申居り候也。私、

此時、田村將軍の社え詣て、鈴鹿絶頂風煙、実にく奇々妙々也。写度候へとも見る事さへ不出来、大荒、只駕の中ニ一心決而命は天にまかせて居り候。真に北苑の画中如行也。

鈴鹿権現ふし拝み、筆捨山、一寸不捨筆、真写いたし候。関の大黒、戎の石越る時、大樹之下、真におそろしく、今も大樹たおれ候様也。駕飛して漸関の本陣迄着致しまいらせ候。日暮也。大風不止、夜三更、少々風止。

*くつる(崩る) *北苑(北苑)

(十一月) 十九日

朝七ツ時、起。風荒く少々出立見合せ候。明六ツ時、閑立。雨晴、亀山城辺にて風もなき和田の里越て、西富田村和泉川橋打渡り、庄野も過て石薬師、追分にて御昼、四日市朝明川の橋越て、待屋川の長々しき橋も渡り、日暮て六ツ半時に桑名駅ニ着致し候。此朝、閑本陣伊藤より、文一通、京御殿え差出し候。

(十一月) 二十日 晴。

明六ツ起、五ツ時放舟。波静、風なく眺望妙々也。今廿丁程ニテ風吹起、心配くいたし候。程なく宮え着。藤枝屋ニテ小休。夫ヨリ河端村越て、笠寺観音え詣て、七ツ時八ツ時也、鳴海銭屋え着。

*河(カシツ) 端村

(十一月) 二十一日 晴。

朝八ツ時、鳴海立。月清光、如昼。池鯉鮒ニテ夜明ル。岡崎、昼。渡辺養園方ニ訪、面会スル。藤川越て、八ツ半時過、赤坂輪違屋ニ着。

(十一月) 二十二日 晴。

明六ツ時、赤坂立て、御由、吉田も過て、岩屋の観音え参詣して、二夕川備後坂上ニテ始テ見不二山。白須賀ニテ昼。新居本陣え着。夫より泛舟、浪平。曇天ニテ不見不二。舞坂え日暮着。此時細雨、終夜雨。

*御由(御油)

(十一月) 二十三日 晴。

朝七ツ半時、舞坂立。浜松ニテ倍堂ニ逢。天竜川渡ル。見附、昼。袋井、掛川、日暮着。此時より雨。

(十一月) 二十四日 雨、終日。

朝五更、掛川本陣加賀屋又兵衛ヨリ出立。日坂口八幡宮え詣て、小夜の中山起て、菊川立場、日坂、金谷坂絶頂不二見台ニテ雨中、不見不二。大井川水浅ク、此景真画中也。無事相渡り島田中島屋ニテ御昼。三軒屋立場、木田浦も過、木田の里越て、瀬戸川渡り、不二枝の駅ニ立場して、七ツ時過、岡部え着、亀甲屋本陣。

*起て(越て)

(十一月) 二十五日 晴。

朝五更、岡部立て、宇津の谷峠越、月清光。岡部谷も越て、御羽織屋立場。此時、東白ム。鞠子ニテ山間の不二見ル。安部川ニテ正面の不二、実快山也。天晴て雲なく、半分雪、半分青ク、真に天下第一也。安部川蓮台渡し、名物餅たへて、府中町も小吉田ニテ御昼、桶

すしもたへて、上原の里越て、府中、江尻も越くれは、**沖津清源寺**え参り、高台にて沖の見渡し、三保の松原、**あし高山**、**左はさつた峠**、東は不二の高山にて、詠もつきぬ海の風景也。所々画ニ写し候。**由井**も通り、**倉崎**も行って、**神原**ニ日暮着いたし候。

*安部川(安倍川) *安部川(安倍川) *沖津清源寺(沖津清見寺) *あし高山(足高山) *さつた峠(薩埵) *由井(由比) *神原(蒲原)

(十一月) 廿六日 晴天。

朝明天前、**神原**出立して、**新坂峠**越て、曙にて東方白ム。不二雲なく絶妙也。中野の里も過、中野郷村も通りて、岩淵ニテ立場。本陣一休して、**不二川**舟渡し、松岡の里過て、元市場ニ立場して、吉原駅に至り、夫ヨリ元吉原毘沙門堂ニ立場して、不二山写。柏原に御昼。原駅★(口十金)笑亭植木屋え寄、一休。沼津も過テ、三島宿銭屋伊三郎ニ日暮前着致し候。此日、終日不二妙々也。

*神原(蒲原) *新坂峠(日坂峠) *不二川(富士川)

(十一月) 廿七日 晴天。

明六ツ時出立。三島より箱根えかゝる山中ニテ御昼。小田原宿え日暮前着。此時、越後皆順寺同宿ニテ面会スル。文、西原え托。

(十一月) 二十八日 晴。

明六ツ時、小田原出立。小八幡ニテ立場、梅沢立場、大磯嶋立沢旧跡も見テ、**寅こ**の石も通り、**ケワイ坂**も越て、花水橋も渡り、平塚、昼。南郷立場。馬入川渡、藤沢、戸塚、程ケ谷着、夜四ツ時也。

*寅こ(虎御) *ケワイ坂(化粧坂)

(十一月) 二十九日 晴。

程ケ谷、朝六ツ時出立。神奈川、川崎、六合の渡し渡り、大森梅屋敷小休。品川、昼也。父様、滝川迎ひ来り候。八ツ半時、築地沢様え着致し候。早々殿様得拝顔、難有り候。私の供幸助、与三吉滞留。

(十一月) 三十日 晴。

無事にくらし候。

(十二月)

十二月朔日 晴。

昼時より芝神明藏成寺、愛客え上り、日暮帰殿也。殿様、父さま、私、奥田、民部也。
*藏成寺(増上寺) *愛客(愛宕)

(十二月) 二日 晴。

昼時より三条さまえ上り候。日暮、帰殿也。葉上方えも行。西京え文出。

(十二月) 三日 晴、雨。

無事。

(十二月) 四日 晴。

朝、幸助帰り候。昼時ヨリ石山様ニ上り候。早々大殿様拝顔して、七ツ時退坐。日暮て帰殿也。西京え文、外ニ品物出。

(十二月) 五日 晴。

短冊、絹本横物花卉揮毫。此日、滝川、兵部、從四位さま来。

(十二月) 六日 晴。

半切二枚、墨梅春山曲塙揮毫。此日、勝見来、夜、島村来。此日、石山将監。

(十二月) 七日 晴。

朝、御坊え参詣。半切書三枚、ヌメ山水揮毫。十八史略輪講。

*ヌメ(統)

(十二月) 八日 晴。

終日ヌメ山水揮毫。夜、島村来。此夜も出火。

*ヌメ(統)

(十二月) 九日 晴。

終日山水落製。安藤、加島、新川、島二郎来。

(十二月) 十日 雨。

昼時、杉山とみ女、牧三郎来。七ツ時、帰り候。夜、本殿え行。二更迄。

(十二月) 十一日 晴。

昼後、殿様、万里小路様え成らせられ候。七ツ時、御帰殿也。朝、三条玉井より便来。絹地彩色草花ニかゝる。夜一更半、出火。霞関上杉邸。

(十二月) 十二日 晴。

終日、画。昼時、麴町一丁目出火、八ツ時半沈。此日、京師姉御殿六日出書状着。夜四更迄詩作。

*沈(鎮)

(十二月) 十三日 晴。

朝四ツ時下りより下谷奥原晴湖方へ行、暫シテ杉山へ行、帰殿、日暮也。

(十二月) 十四日 節分 晴。

昼時ヨリ石山様え参殿。父様も参殿也。襖梅花図揮毫。父様、暫して帰られ候。私一宿。此日、冷泉伏原様成らせられ候。夜四更、御帰り候。五更二臥。此日も石山様にて年取。先々節分御祝酒もするく相済候。

(十二月) 十五日

石山様御参也。終日襖揮毫。

(十二月) 十六日

朝、石山様御退出也。父様参殿也。暫時して、帰られ候。終日襖揮毫。

(十二月) 十七日 雪。

朝、石山様御参也。伏原様来られ候て、昼後迄居られ候。終日揮毫。此日、雪也。

(十二月) 十八日 晴。

朝、石山様御退出也。又早々御他行也。襖落製。昼時、私、人力車ニテ帰り候。牧三郎来。河野雪巖来。

(十二月) 十九日 晴。

終日京名所揮毫。

(十二月) 二十日 晴。

終日揮毫。

(十二月) 二十一日 晴。

終日揮毫。外務卿様、近藤氏来。此日、火又火。

(十二月) 二十二日 晴。

終日揮毫。夜三更下りより、大火。高砂町より焼ル。明六ツ半迄。此日、京師え脚便スル。

(十二月) 二十三日 晴。

終日揮毫。

(十二月) 二十四日

終日揮毫。京名所廿五枚下絵落製。

(十二月) 二十五日

沢様御屏風一双薄彩色松竹梅、揮毫。

(十二月) 二十六日

此日も屏風揮毫。

(十二月) 二十七日

此日、屏製いたし候。

(十二月) 二十八日

此日、中番捨蔵、水野大助ニ連れて来てもらひ候。住姫さま御御供也。

*御(御(衍))供

(十二月) 二十九日

昼前より、父さま、私、与三吉連て買物ニ行。七ツ時、帰り候。いろ／＼こしらへ物して、夜五更ニ一寸臥。

*こしらへ物(拵へ物)